

第 134 回 19 世紀の欧米文学

1 古典主義

・古代ギリシア・ローマ文化を理想とし、形式美と調和を重視したスタイルを（ ）という。

- () …ドイツの文豪。『』、『若きウェルテルの悩み』。ヴァルミーの戦いに参加。
- () …ドイツの文豪。『群盗』、『ヴァレンシュタイン』。



ゲーテ
ゲーテやシラーは、疾風怒濤(シュトゥルム=ウント=ドラム)と呼ばれる文学運動の中心であった。

2 ロマン主義

・18世紀の啓蒙思想に反発し、人間の個性や感情を重視した。民族の歴史や伝統を尊重したスタイルを（ ）といい、ナショナリズムとも結合した。

- ノヴァーリス …ドイツの初期ロマン派詩人。『青い花』。
- () …ともにドイツの言語学者。ドイツの民族意識を高揚させた。
- () …ユダヤ系ドイツ人の詩人。『』。
- () …フランスのロマン主義を代表。『』。
- アンデルセン …デンマークの童話作家。「人魚姫」、「みにくいアヒルの子」。
- ワーズワース …イギリスの詩人でロマン主義の先駆者。『叙情歌謡集』。
- () …イギリスのロマン派詩人。ギリシア独立戦争に参戦。
- () …ロシアの作家。プガチョフの乱を題材にした『大尉の娘』。
- () …アメリカのロマン派詩人。『草の葉』。



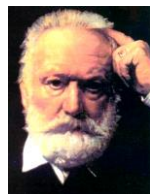
グリム兄弟

『グリム童話』で有名。森を舞台にした話が多いのは、ドイツに森が多いからだろうか。第126回のプリントも見ておこう。



ハイネ

「書物を焼く国は、その国を焼くであろう」は名言。「宗教はアヘンである」は、友人のマルクスに引用されて有名になった。



ヴィクトル=ユゴー

『レ=ミゼラブル』は文学史上に残る超名作。ナポレオン3世の第二帝政を否定し、亡命したことがある。



バイロン

イクメン詩人。『チャイルド=ハロルドの巡礼』で有名。結局ギリシアで熱病にかかり、そこで死んだ。第120回を復習。

3 写実主義

・人間の感情を誇張するロマン主義に対し、社会や人間をありのままに描こうとしたスタイルを（ ）という。

- () …フランスの作家。復古王政期を舞台にした『』。
- () …フランスの作家。短編『人間喜劇』で市民社会を書いた。
- () …フランス写実主義の確立者。『ボヴァリー夫人』。



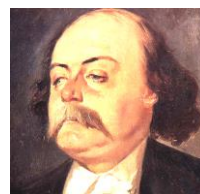
スタンダール

『赤と黒』の赤は軍人、黒は聖職者を表すらしい。詳しい時代背景は、第120回のプリントを見よう。なおスタンダールはペンネームである。



バルザック

幼い頃に母親に愛されず、それが多くの女性とつきあう心理的要因となったらしい。ユゴーとは同時代で親友。



フロベール

『ボヴァリー夫人』の舞台は、フロベールの故郷でもあるルーアン。その内容が風紀を乱すとされ、裁判にまで発展した。日本でも一時発禁。

- サッカレー …イギリスの作家。人間の不完全さを風刺。『虚栄の市』。
 () …イギリスの文豪。『オリヴァー=トウィスト』や『二都物語』。
 ゴーゴリ …ロシアの作家。『検察官』、『死せる魂』、『鼻』。
 () …ロシアの作家。『父と子』で農奴制とインテリゲンツィアの姿を描いた。ニヒリズムという言葉を初めて使った。
 () …ロシアの作家。キリスト教に基づく魂の救済をテーマとした作品を残した。『 』、『カラマゾフの兄弟』。



産業革命期のイギリスを舞台に、下層社会に生きる人物を描いた。彼自身も貧しい子供時代を過ごしている。第 112 回のプリントも見よう。

ディケンズ



ウクライナ生まれの作家である。『検察官』の皮肉的な文章が批判され、その後はイタリアやドイツで生活を送った。プーシキンと親交があった。

ゴーゴリ



大学生の時に、とりあえず読んでみたが、登場人物の名前が長すぎて断念。もう一度挑戦したい作家である。19 世紀ロシアを代表する作家。

ドストエフスキー

4 自然主義

・写実主義をさらに発展させ、現実社会の矛盾を正確にとらえ、人間の汚い部分も描こうとしたスタイルを () という。

- () …フランスの作家。ドレフュス事件では、「私は弾劾する」と述べて軍を批判した。代表作『 』など。
 () …フランスの作家。『 』。フロベールの弟子。
 () …ノルウェーの劇作家。『 』、『ペール=ギュント』。
 ストリンドベリ …スウェーデンの作家。『父』、『令嬢ジュリー』。
 () …ロシアの文豪。クリミア戦争に参加。ナポレオン戦争期のロシアを描いた『 』、『アンナ=カレーニナ』。
 チェーホフ …ロシアの作家。社会事業にも奔走した。『桜の園』。



入試では必ずドレフュス事件との絡みで出てくる。なおこの肖像画を描いたのは、印象派のマネである。第 140 回でも登場。

ゾラ



エッフェル塔が嫌いで、毎日エッフェル塔のレストランに通っていた。理由は「眺めに入らないから」。

モーパッサン



『人形の家』は、ノラという女性を主人公とし、新しい時代の女性を描いた。フェミニズムのきっかけになったとも。

イブセン



ナポレオン戦争や、クリミア戦争絡みで出題されることが多い。19 世紀を代表する作家である。

トルストイ

5 象徴主義

・自然主義に対し形式的な表現をやめて、新鮮なリズムと象徴的な表現を重視したスタイルを象徴主義という。

- () …フランスの詩人。『悪の華』。
 ランボー …フランスの詩人。『地獄の季節』。
 メーテルリンク …ベルギーの詩人。『青い鳥』。



ボードレール
 フランス近代詩の父とされるが、酒好き、女好きで、父の遺産を使い果たしている。